

説明

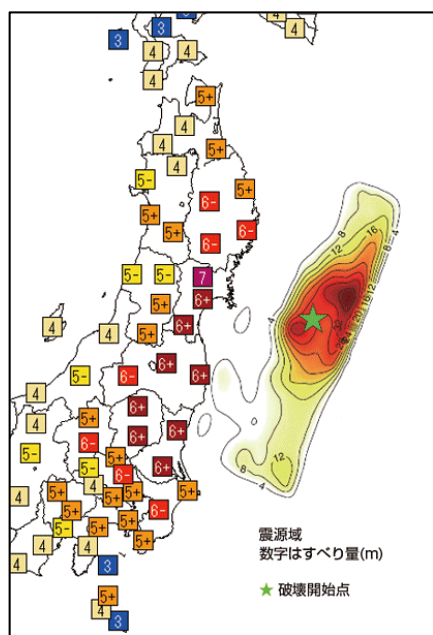
プレート<sup>きょうかい</sup>境界の地震

地球のプレートがぶつかりあっているところ(境界)<sup>きょうかい</sup>では、一方のプレートが地球の内部にもぐりこみます(①)。その時、もう一方のプレートの端も引きこもうとします(②)。これが進むと、引きこまれたプレートは元に戻ろうとはねあがります(③)。このとき地震が occurs。



コラム

東北地方太平洋沖地震はプレート<sup>きょうかい</sup>境界の地震



平成23年におこった東北地方太平洋沖地震も、プレート<sup>きょうかい</sup>境界の地震でしたが、南北約500kmの広い<sup>はんい しんげんいき</sup>範囲(震源域)で、最大約30mも陸側のプレートがはねあがりました。

説明

活断層の地震

地表に近いところにも、プレートの動く力が加わっている  
 ので、地震がおきて動いてずれたあと(断層といいますが)  
 がたくさんあります。特に地震がおきやすい断層のことを  
 活断層といっています。

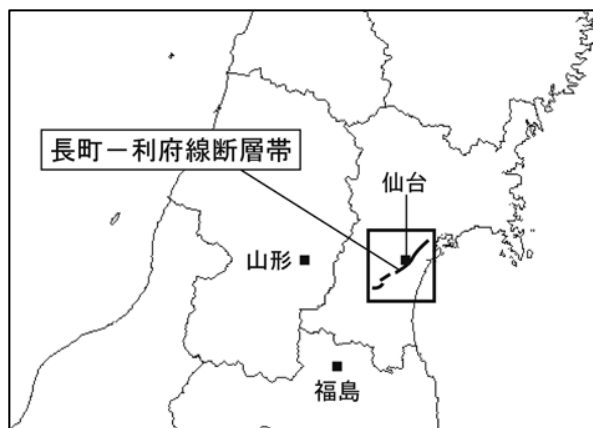


平成7年(1995年)兵庫県南部地震  
 (阪神淡路大震災)の野島断層

陸地の活断層は、私たちが  
 生活している地面の下の浅い  
 ところにあるため、地震が発生  
 するとゆれが大きく、被害につ  
 ながりやすい特徴があります。

説明

私たちの町の近くの活断層は



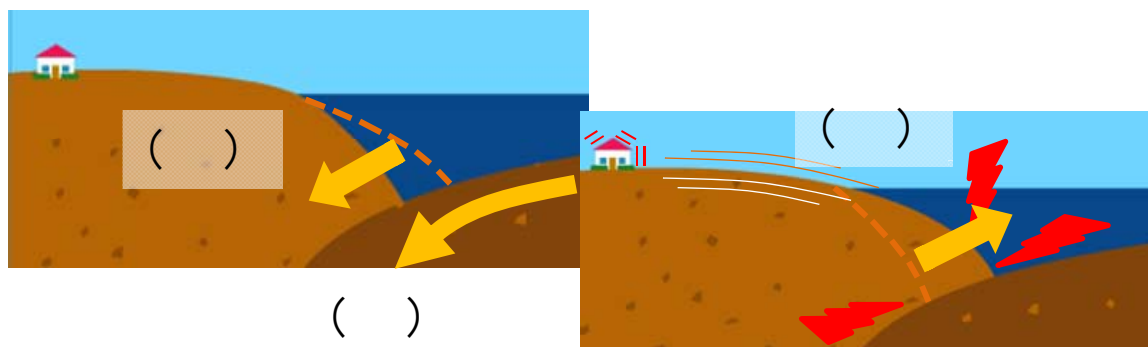
出典:「主要活断層帯の長期評価」  
 (地震調査研究推進本部)

たとえば、仙台市とその周辺  
 には、長町-利府断層帯が  
 あります。平均的な活動間  
 隔は3千年程度で、もし動くとマ  
 グニチュード7.0~7.5程度の地  
 震になるといわれています。

## 1 プレート<sup>きょうかい</sup>境界の地震

図に地震がおきるまでの順番を入れましょう。

- ① プレートがもう一方のプレートの下にもぐりこむ
- ② もう一方のプレートの端がひきこまれる
- ③ もう一方のプレートが元にもどろうとはね上がって地震がおきる



## 2 活断層<sup>かつだんそう</sup>の地震

活断層<sup>かつだんそう</sup>とは、どんな断層<sup>だんそう</sup>のことでしょうか。

- ① 特に地震がおきやすい断層
- ② 地面の上に見えている断層
- ③ 地震はもうおこらない断層



日本には、2千ヶ所以上の活断層があるといわれていますが、まだ発見されていない活断層もあり、はっきりした数はわかっていません。